

憂楽帳

連載をフ

南アの算数教育

毎日新聞 2019年9月21日 東京夕刊

紙面掲載記事 >

オピニオン >

コラム >



算数の授業を受ける子供たち＝南アフリカ北東部リンボポ州マフェフェで2019年9月2日、小泉大士撮影

[PR]

国際協力機構（JICA）専門家の船木淳子さん（64）は、南アフリカ基礎教育省で算数教育の向上に取り組んでいる。アフリカで唯一の主要20カ国・地域（G20）加盟国でも、人材育成につながる教育の質はまだ低い。

5年前の全国統一学力テストで中学3年の正答率は約11%。低学年で学ぶ基礎がおろそかなので授業が理解できない。教える側も困っている。ある先生は「54 マイナス 17」を計算する際、54個の△を書き出して×で17個消した。これも黒人層の教育を軽視したアパルトヘイト（人種隔離）政策の弊害。旧黒人居住区の学校には知識が乏しく、十分な訓練を受けていない教員が多い。

船木さんはつまずきの原因を知るため、足しげく現場に通う。田舎にある小学校の教員からも意見を聞き、教材や指導案に反映させてきた。「押しつけではなく、この国の人々がやりたいことを探り当てて、その実現をお手伝いする」。子供が教室で生き生きとした表情を浮かべれば、先生も手応えを感じる。南ア人の同僚らとそんな授業を目指しているという。【小泉大士】



小学校の授業を視察するJICA専門家の船木淳子さん（中）＝南アフリカ北東部リンボポ州マフェフェで2019年9月2日、小泉大士撮影